

あいち農産物生産流通レポート

2023年6月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 食育月間における食育推進について	(食育消費流通課) 1
・ クルクマ鉢花の低コスト6月下旬出荷技術を開発	(農業総合試験場) 2
◎ 地域トピックス	
・ 夏秋なすのパッキングセンター(PC)出荷が順調に拡大	(豊田加茂農林水産事務所) 4
◎ 東日本情報	
・ 埼玉県深谷市における「DEEP VALLEYアグリテック集積」の取組について	(東京事務所) 5
◎ 西日本情報	
・ 食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備事業について	(食育消費流通課) 7
◎ フラワーページ	
・ 花いっぱい県民運動の取組について	(園芸農産課) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の6月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

食育月間における食育推進について

食育消費流通課

毎年6月は「食育月間」と定められています。食育月間は、国、地方公共団体、関係団体等が協力し、食育推進運動を重点的かつ効果的に実施することで、皆さんの食育に対する理解を深め、食育の活動に積極的に参加していただくなど、食育の一層の浸透を図っています。

1 食育月間について

食育の基本的理念を定めた食育基本法が2005年の6月に制定されたことが、6月＝食育月間となったきっかけの一つです。また、食育月間の実効性を確保するという観点から、年度初めの環境の変化からくる余裕のない生活が落ち着き始める6月が適していると考えられています。

2 愛知県での食育推進活動

愛知県では、県民一人一人が食の大切さを理解し、主体的に食育に取り組むための指針として「あいち食育いきいきプラン2025」を作成し、県民運動として食育を推進しています。食を通じて、「健康な体をつくる」、「豊かな心を育む」、「環境に優しい暮らしを築く」、「食育を支える」取組を柱として、食育の実践に取り組んでいます。

Webサイト「食育ネットあいち」においては、食育の基礎知識から、食育に関する取組、さらには食育イベント情報など、学校や地域の食育活動に役立つ情報を掲載しています。

※「食育ネットあいち」

URL : <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>



3 食育推進ボランティアの募集

愛知県では、地域で食育活動を自主的に行っていただく方を「愛知県食育推進ボランティア」として登録し、活動を支援しています。そこで今年度も食育月間の6月に、登録を希望する方を募集します。知識や技術を生かし食育推進ボランティアとして活動していただける方の応募をお待ちしております。



食育推進ボランティア
活動の様子

■応募要件

次のいずれかに該当する人を対象とする。

- ①管理栄養士又は栄養士の資格を有する方
- ②食生活改善推進員の養成講座を修了した方
- ③調理師の資格を有する方
- ④農村輝きネット・あいち、JA、漁協、生協などの団体等に所属している方
- ⑤食育に関するその他の資格等を有する方又は

食育推進に関する豊富な活動経験を持つ方で、食育消費流通課が認めた方

※「食育推進ボランティア募集」の詳しい情報は、以下のWebページを御覧ください。

URL : <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/support/volunteer.html>



クルクマ鉢花の低コスト6月下旬出荷技術を開発

農業総合試験場

1 背景と目的

クルクマは、熱帯アジア原産のショウガ科の球根植物です。農業総合試験場が2014年に育成した「アイルージュ」は、切り花はもちろん鉢花にも適した特性を持ち、海部地域で生産されています。特に鉢花としては、耐暑性に優れ、11月まで連続して開花し、鉢花が少ない夏季に出荷できる品目として高い需要があります。

現在、「アイルージュ」の鉢花は、7月下旬から9月にかけて出荷されています。一方、近年は小売店から、品種の優位性を最大限に発揮できる6月出荷を望む声が高まってきました。しかし、生産者による試作の結果、鉢花を6月に出荷するためには1月上旬から栽培室内を20℃、培地を25℃に加温する必要があることがわかり、高い暖房コストが6月出荷作型の普及を妨げていました。

そこで、低コストで鉢花を6月に出荷できる栽培方法を確立するため研究に取り組みました。



クルクマ「アイルージュ」

2 培地温度が植付けから開花までの所要日数に及ぼす影響

日中(6~19時)の培地温度が、4号鉢への植付けから開花までの所要日数に及ぼす影響について、植え付ける球根の状態(出芽の有無)を変えて調査しました。

その結果、出芽球根は未出芽球根の半分程度の日数で開花しましたが、培地温度はクルクマの生育に大きく影響し、日中の培地温度が高すぎると開花が遅延することがわかりました(表1)。

表1 日中の培地温度が球根の植付けから開花までの所要日数に及ぼす影響

試験区名	培地の平均温度(℃)		植付けから開花までの所要日数(日)	
	日中(6~19時)	夜間(20~5時)	未出芽球根の植付け	出芽球根の植付け
30℃区	29.9	26.2	88.0 ± 9 b ^{Z)}	44.8 ± 2 b ^{Z)}
35℃区	33.4	28.6	109.5 ± 9 a	47.6 ± 8 b
40℃区	36.8	29.4	開花せず	65.0 ± 6 a
非制御区	28.0	25.4	91.1 ± 7 b	46.9 ± 4 b

Z)Tukeyの多重検定により異なるアルファベット間に5%水準で有意差あり

3 パイプハウスの地熱を利用した低コスト球根出芽法の開発

一部のクルクマ鉢花生産農家は球根増殖用のパイプハウスを保有しています。そこで、パイプハウスを閉め切り、地熱を利用して無加温で球根を出芽させる方法について検討しました。

試験区は畝へのビニル被覆の有無と球根仮植の深さ（5 cm、10cm）を組み合わせた4区を設定しました（図1）。

球根仮植から2か月経過した5月30日に生育ステージを調査したところ、ビニル被覆をして深さ10cmに仮植した「被覆有10cm」区が最も進んでいました（図2）。試験期間中における地温の積算温度は、「被覆有5cm」区が最も高くなりました。しかし、30℃を上回る時間帯が試験区の中で最も長かったことから、高地温により生育が遅延したと考えられました。「被覆有10cm」区は20～30℃の遭遇時間が最も長く、順調に出芽が誘導されたと考えられました（図3）。

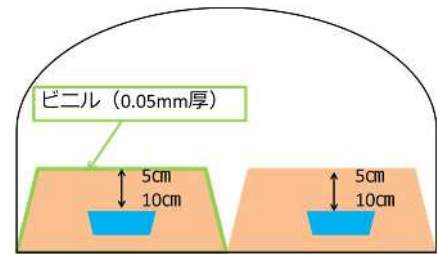


図1 試験の模式図

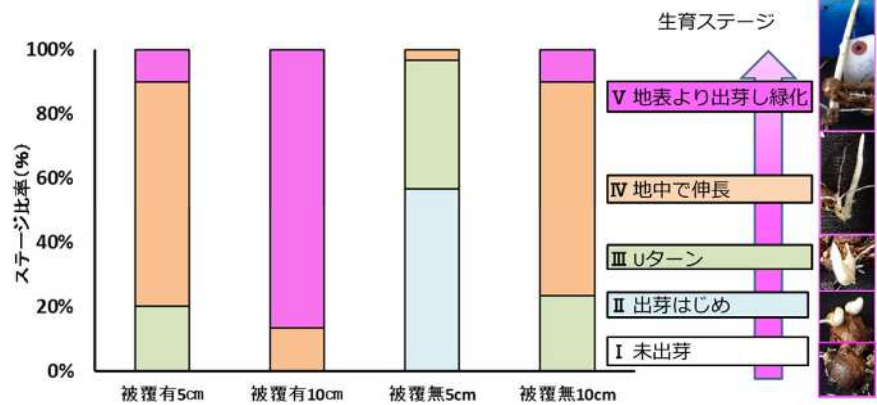


図2 仮植2か月後の生育ステージ割合

4 パイプハウスの地熱を利用して出芽させた球根の発蕾・開花

パイプハウスの地熱を利用して「被覆有10cm」で出芽させた球根を5月1日に4号鉢に植え付け、無加温のガラス温室で管理したところ、球根は6月中に開花しはじめ、7月末にはすべての株が開花しました（図4）。

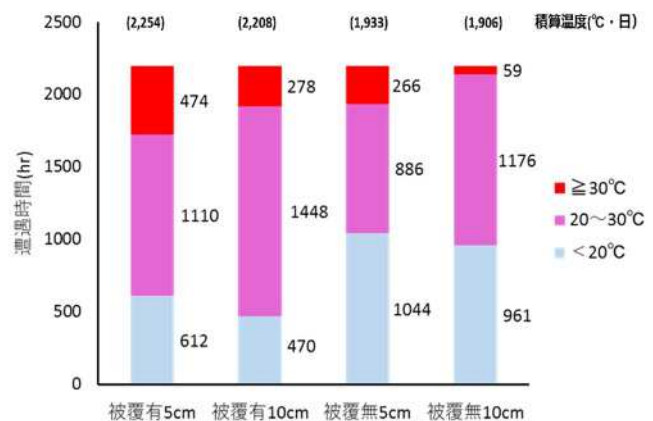


図3 地温の積算温度と温度域別遭遇時間

5 まとめ

クルクマは熱帯アジア原産であることから高温に強いと思われがちですが、地温が高すぎると生育が遅延します。低コストで早期開花させるためには適切な地温管理が重要です。パイプハウスの地熱を利用した出芽処理は、適切な温度域に長時間遭遇できる植込みの深さや被覆資材を選定することで十分有効な手法です。

今後、鉢に植え付ける際の適切な生育ステージ等を解明できれば、暖房コストをかけずに高確率で6月下旬に出荷できると思われま

す。（本研究の一部は農林水産省持続的生産強化対策事業のうち「生産体制・技術確立支援」で実施した成果です）

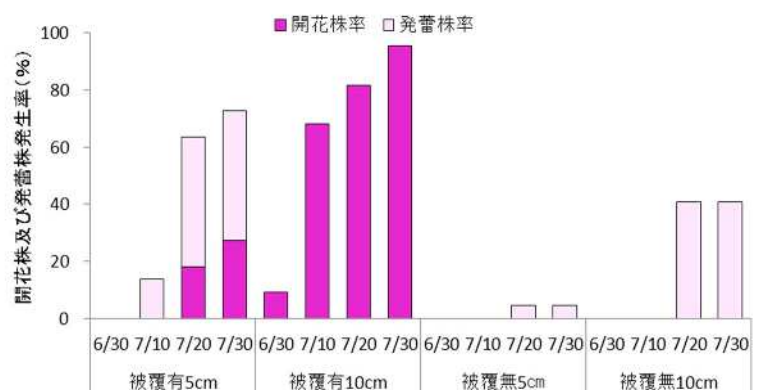


図4 開花株及び発蕾株発生率

夏秋なすのパッキングセンター（P C）出荷が順調に拡大

豊田加茂農林水産事務所

豊田加茂地区は夏秋なすの産地があり、2021 年から J A あいち経済連西三河地域青果物パッキングセンター（以下、P C と省略）への出荷が始まりました。

生産者は、なす（等級は並以上、階級は M 以上のもの）に傷がつかないようにコンテナに同方向に並べて入れ、P C では、職員が出荷規格に沿って選別、出荷調製を行います。

P C 出荷のメリットは、生産者自身が行う出荷調製の作業時間が削減でき、数量が半端で市場出荷できない果実も無駄なく出荷できるなどが挙げられます。



P C 職員による選別作業の様子

1 産地への波及効果

当初は、P C へ作業委託することにより、利用料や資材経費、運賃などのコストが通常の市場出荷よりも余分にかかるため、利用に慎重な生産者もいました。

しかし、削減できた時間を病害虫防除などの栽培管理に充てた結果、以前よりも株あたり収量が増加した生産者や栽培面積を拡大した生産者も出てきました。

この結果、産地における P C 出荷量は 2021 年の 30t から 2022 年は 99t と 3 倍以上に拡大しました。

2 産地での新たな取組

P C 出荷が始まった 2021 年は、生産者自らが安城市にある P C まで運んでいましたが、生産者からは P C への運搬委託を望む声が上がりました。その要望を受けて、2022 年からは豊田市内にある 2 カ所の J A 集荷場に生産者が運んだものを業者が P C に持ち込む「横持便」が始まり、生産者は P C への直接持ち込みまたは横持便のどちらかを選ぶことができるようになりました。

また、P C 出荷量の拡大に伴い、2022 年から新たに契約野菜安定供給事業に加入しました。この事業は、契約取引に伴う生産者のリスクを軽減するために、実需者の J A あいち経済連と登録出荷団体の J A あいち豊田が出荷数量等についての契約を交わし、生産者が負担金を納付します。価格が著しく低落した場合には生産者に対して補給金が交付されることにより、生産者の経営安定が図られます。

産地では、P C 出荷への生産者の理解とさらなる利用拡大を図るために、4 月に利用希望者への説明会、6 月には P C 出荷利用者向けの目揃え会を開催しています。

3 今後に向けて

当地区の夏秋なす栽培面積は減少傾向にあります。P C 活用による出荷調製作業の軽減が、高齢生産者の栽培面積維持や若手生産者の栽培面積拡大をもたらし、産地の維持・拡大につながることを期待されています。

埼玉県深谷市における「DEEP VALLEY アグリテック集積」の取組について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

令和5年度第1回農業懇話会（公益社団法人大日本農会主催）が5月19日（金）に都内で開催され、「儲かる農業都市ふかやの実現に向けたDEEP VALLEY アグリテック集積の取り組み」の演題で深谷市役所の福嶋隆宏氏から報告がありましたので、その内容を紹介します。

1 背景

埼玉県深谷市は「深谷ネギ」が全国的に有名であり、ネギの生産農家数と作付面積は全国1位です※¹。ブロッコリーも全国1位で、このほか、キュウリ、スイートコーン、ユリ、チューリップも主要な農作物となっており、深谷市は農業を強みとしています※²。しかし、農業産出額は2015年の349.3億円から2019年の290.3億円に、販売農家数は2015年の2,551戸から2019年の2,122戸に減少しています。

こうした状況の中、市では2019年度に「深谷市産業ブランディング推進方針」を策定し、農業を核とした産業ブランディングに取り組んできました（図1）。方針では、「野菜を楽しめるまちづくり戦略：VEGETABLE THEME PARK」、「アグリテック集積戦略：DEEP VALLEY」、「地域内経済循環向上の取組：地域通貨 negi（ネギー）」の推進と、これらの相互連携により「儲かる農業都市ふかや」を実現することを掲げています。なお、1negiは1円に相当し、これまでに市内で約45億negiが流通しています。

アグリテックはAgricultureとTechnologyを組み合わせた造語であり、テクノロジーを活かして地域の農業課題を解決し、生産性を高めることを目的としています。具体的には、農業分野では現場の課題を集め、非農業分野では課題を解決する技術を集め、課題と技術を繋げること及びその取組を広げます。これにより、農業に関わる多様な企業が繋がり合い、自発的な企業集積が進んでいる状態のアグリテック集積都市 DEEP VALLEY の実現を目指しています。

※1 出典（配付資料より）

ネギ：生産農家数＝農林業センサス2020、作付面積＝農林水産省野菜生産出荷統計2015

ブロッコリー：生産農家数＝農林業センサス2020、作付面積＝農林水産省野菜生産出荷統計2020

※2 深谷市の経済効果分析では、農業は他産業へ与える影響力が大きく、同時に他産業から受ける感応度も大きい産業で、地域の取引の核となっている産業である。



図1 深谷市産業ブランディング推進方針の概念図
(配付資料から抜粋)

2 これまでの取り組み

深谷市では、日本のアグリテック企業の登竜門であるアグリテックビジネスコンテストを2019年から毎年開催し、市の農業が抱える課題を解決する技術を表彰する取組を行ってきました。コンテストには、受賞から1年以内を目処に実証事業を始める「現場導入部門」と、受賞から2～5年を目処に実証事業を始める「未来創造部門」を設けており、受賞者には、実証実験用農地の提供や出資等のさまざまな支援を行っています。コンテストへの企業のエントリー数は2022年までの4回開催で延べ89件となっており、これまでの受賞企業のうち4社に市が出資をしています。

受賞企業による実証事業では、安価なカメラの圃場設置による遠隔監視での生育モニタリング、GPS制御の自律走行型ロボットの開発、スマートフォンとARゴーグルを用いた空間認識による畑の平行直線ガイド・面積計測・等分割の技術開発等が行われました。現場実証を行う企業の中には、本社の機能を深谷市へ移転して市内圃場での実証実験を重ね、サービスの提供を開始する企業も出てきています。

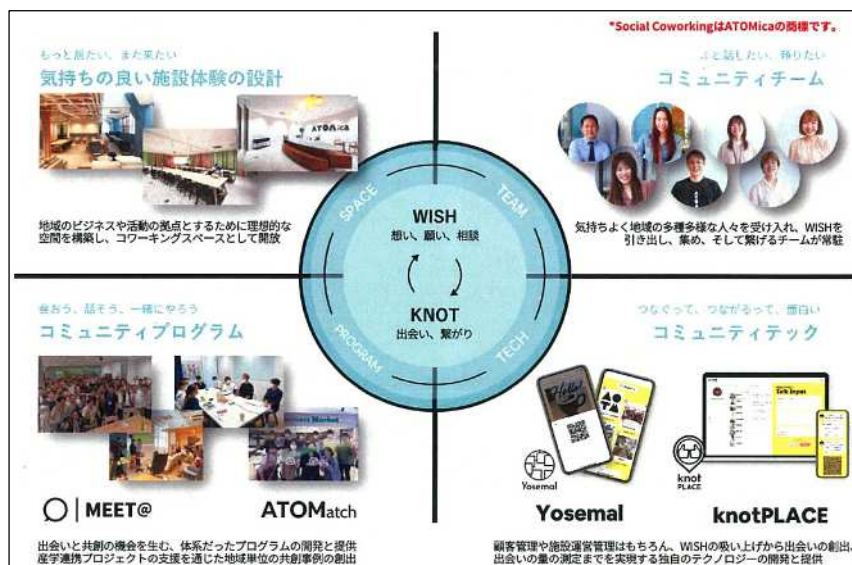
なお、アグリテック集積事業の財源は全てふるさと納税による基金で行っていますが、深谷市ではふるさと納税に3つの用途を設けており、去年は総額8億円余のうち約6割がアグリテック集積事業を含む産業ブランディング推進方針の用途となっています。

3 今後の展開について

アグリテック集積を進めるためには、企業側からの提案をさらに増やしていく必要があります。このため、令和5年度からは、コンテストの応募部門をフードバリューチェーン全体に拡大し、「農業生産部門」と「フードバリューチェーン部門」の2部門とする予定です。また、企業と生産者のマッチングを常時実施する取組として「アグリテック交流拠点」の整備を予算化しました(図2)。

アグリテック集積を推進してきた「産業ブランド推進室」の設置は5年間の時限措置でしたが、これまでの実績が評価され、当面の間は存続することが決定しています。今後の目標としては、力点を課題解決技術の現場実装の段階から企業集積の段階へ移行し、企業間の競争と補完による新産業のイノベーション促進を考えています。

また、今後の課題としては企業集積数の増加とスピードアップが挙げられます。これまでに深谷市を拠点とした企業は3社のみですが、総合計画では拠点とする企業数を10社としており、計画実現に向けての一層の取組推進が必要です。なお、企業誘致のためには土地開発も検討していく必要がありますが、市内の多くが農業振興地域であるため、企業が利用できる土地の確保も課題となっています。



食品産業の輸出向け HACCP 等対応施設整備事業について

食育消費流通課

食品産業の輸出向け HACCP 等対応施設整備（緊急対策）事業について紹介します。この事業は、食品製造事業者等による ISO、FSSC、ハーラル・コーシャ等、輸出先国の規制に対応するために必要な施設や機器の整備と HACCP 等の施設認定・認証取得を一体的に支援するもので、2020 年度から始まりました。ハードとソフトの支援を一体的に行うことで、認定・認証取得を円滑に進め、輸出を伸ばすものです。

1 事業の内容

(1) ハード対策：施設等整備事業

加工食品等の輸出拡大に必要な製造・加工、流通等の施設の新設・増築、改修及び機器の導入

(2) ソフト対策：効果促進事業

施設等整備事業と一体的に行い、その効果を一層高めるために必要なコンサルティング等の実施

(3) 交付金の交付率

交付対象事業費の 1 / 2 以内。ただし、ソフト事業はハード事業の 20% 以内。

(4) 事業実施主体

食品製造者、食品流通事業者、中間加工事業者等。法人格を有する農林漁業者又はそれらの組織する団体が、製造・加工、流通等を行う場合も含まれます。

(5) 輸出事業計画

事業実施主体は輸出事業計画の認定を受ける必要があります。

(6) 達成目標

取組実施後 5 年以内に輸出額を 1 千万円以上増加する目標を設定します。



図 取組の内容

※農林水産省 Web ページから引用

2 本県における事業実績

これまでに 6 件が取り組みました。実績の内訳は、食品加工施設 2 件、醸造施設 2 件、製菓施設 2 件です。本年度も醸造施設 1 件を予定しています。

3 事業の進め方

事業実施期間は 1 年間です。県では事業実施の前年 6 月に要望調査を行い、事業実施に向けて実効性の高い計画の作成を支援します。

事業実施主体は事業実施計画書を県に提出します。国による事業採択後、事業を実施し、目標達成に向けて輸出に取り組みます。

現在、2024 年度の事業について、要望調査を行っています。詳しくは、所在地管轄の県農林水産事務所農政課もしくは食育消費流通課にお問い合わせください。

花いっぱい県民運動の取組について

園芸農産課

花の産出額が60年間日本一の愛知県では、花きの生産、流通、小売及び消費に係る団体とともに、「花の王国あいち県民運動実行委員会」を組織し、県民の暮らしに花を取り入れていただく「花いっぱい県民運動」を展開しています。

今年度が11年目となる「花いっぱい県民運動」について、その取組を紹介します。

1 花の王国あいちPR促進運動

ア 今月のあいちの花

月ごとに「今月のあいちの花」を設定し、マスコミ等へのPR活動や、県内主要施設（県庁本庁舎、刈谷ハイウェイオアシス等）での装飾展示をしています。



県庁本庁舎



刈谷ハイウェイオアシス



NHK「ウィークエンド中部」

イ 花の王国あいちシンボルマーク

愛知県が日本一の花の産地であることを広く周知し、県産花きの利用拡大を促すために、「花の王国あいちシンボルマーク」を活用したPRに取り組んでいます。

あいちの花を展示しているところでは、是非このマークを探してみてください。

○シンボルマークのコンセプト

花の王国あいちの象徴となる王様の顔をデザインしています。王冠は花を横から見た形をイメージし、葉をヒゲに見立てています。

カラーは、グリーンは植物、ピンクは花と愛、ブラウンはそれらを育む土の色を表現しています。



登録商標第5815223号

花の王国あいちシンボルマーク

ウ 花の王国あいちサポート企業

「花いっぱい県民運動」の趣旨に賛同し、愛知県産の花を用いた活動を実践していただける県内企業等を募集、認定しています（2013年度から累計42企業認定）。

また、本年度はサポート企業と連携したPRイベントの実施を予定しています。



2022年度認定証贈呈式

エ 情報発信

ホームページや Instagram を活用し、積極的に「花の王国あいち」をPRしています。今月のあいちの花やイベント情報などを掲載しています。ぜひ、フォローをお願いします。



花の王国あいちホームページ



花の王国あいち Instagram

2 あいちの人と花結び事業

ア 花育ティーチャーズの登録・派遣

花や緑に関する専門的な知識や経験を有し、県内の花育活動に際し、指導・支援を行うことができる個人または団体を募集、登録しています。

登録された花育ティーチャーズを、小学校等での花育活動の指導・支援を希望する機関の要請に応じ、紹介しています。寄せ植えやフラワーアレンジメントなどの花育教室の開催を検討されている方は是非ご活用ください。

イ 高齢者福祉施設等でのフラワーアレンジメント教室

施設におけるレクリエーション活動として、高齢者福祉施設等でのフラワーアレンジメント教室を開催しています。



花育ティーチャーによる小学校での花育教室



高齢者福祉施設でのフラワーアレンジメント教室

3 花の王国あいちパートナーシップ事業

注目が集まる県内のイベントにおいて、「あいちの花」をふんだんに使った装飾展示などにより、「花の王国あいち」を幅広く県民にPRしています。今年度は、5月に名城公園で開催される「杭州アジア競技大会オフィシャルファンラン」において、ステージ装飾を実施するなど、「あいちの花」を広くPRしていく予定です。



ジブリパーク開園に合わせた
あいち市町村フェアでの展示（2022年）



名古屋ウィメンズマラソン
優勝選手への花束贈呈（2022年）

4 花のまちづくり推進事業

商店街、企業等における「あいちの花」を活用した花のまちづくりを進める取組です。申請のあった団体へ専門家を派遣し、花壇づくり等の技術指導を実施しています。



住宅街での花壇づくり



介護施設での花壇づくり

5 あいちの花文化振興事業

あいち花マルシェなどのイベントを活用し、いけばなやフラワーアレンジメントなどの花文化の振興を行っています。

昨年はいち花マルシェ 2022 のステージで、いけばなのデモンストレーションを実施しました。



あいち花マルシェ 2022 におけるいけばなのデモンストレーション

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：おおば）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	278	268 (97%)	2,889	2,904	愛知 (97%) 大分 (2%) 茨城 (1%)
2023年見通し	280	—	2,500	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知の入荷が中心となる。つまもの全体と同様に、大型連休中の出費により、消費動向が鈍く、荷動きが悪い。 入荷量は昨年より増えるが、コロナ渦前に入荷量に戻るにはほど遠い。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>			<p>前年から厳しい販売状況が続いており、産地は苦勞をしていると思われる。 想定よりも大阪府、京都府、奈良県などのインバウンド需要が見込めず、荷動きが悪いため、厳しい状況である。 今後の景気回復に期待したい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ハウスみかん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	2,865	321 (11%)	1,043	1,262	佐賀 (72%) 愛知 (11%) 大分 (6%)
2023年見通し	2,890	—	1,030	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>佐賀を中心に愛知、大分、長崎が大半を占める。 前年は平年並の入荷量と相場で5月はスタートした。7、8月は天候の影響により小玉傾向であったことや、ギフト需要の引きもあり、単価は平年より高かった。 本年は生産者減の影響により入荷量は減少傾向となるか。今後は6月に入荷のピークを迎える。入荷量、価格共に前年並となる見込み。</p>			<p>品質的に安定しているハウスみかんは、底堅い需要がある。また、中元商戦やお盆の時期を始めとしたギフト・お祝い品としての引き合いも強い。 なかでも愛知県産は、他産地よりも良食味で、品質も安定しており、果物専門店や量販店などからの信頼が高い。今後も信頼を維持していくために、出荷に当たっては、規格を守り浮皮や着色などに注意して選果して欲しい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	2018年	32,350	222	221	220	長野	19%	
	2019年	32,300	223	221	209	愛知	18%	
	2020年	32,759	249	238	245	茨城	9%	
	2021年	33,945	238	252	212	兵庫	7%	
	2022年	32,607	242	254	229	熊本	6%	
	5カ年平均	32,792	235	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2023年見通し	31,800	228	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、愛知、茨城などから入荷する。梅雨入りの時期や天候次第で、出荷状況や出荷量に影響が出る予想。 入荷量は前年をわずかに下回り、単価は前年をやや下回る見込み。</p>						
だいこん	2018年	1,410	101	103	100	青森	61%	
	2019年	1,574	88	86	82	愛知	18%	
	2020年	1,579	111	120	108	北海道	11%	
	2021年	1,528	113	119	99	岐阜	8%	
	2022年	1,432	120	128	114	千葉	2%	
	5カ年平均	1,505	106	111	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2023年見通し	1,400	115	120	110			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森を中心に愛知、北海道などから入荷する。愛知の入荷は6月中旬で終了予定。 青森、北海道は生育順調で、青森産はやや前進出荷傾向。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
じゃがいも	2018年	1,771	99	89	103	109	岐阜	51%
	2019年	1,746	116	105	123	121	徳島	15%
	2020年	1,602	199	154	197	262	長崎	10%
	2021年	1,914	132	137	138	121	兵庫	7%
	2022年	1,732	145	128	159	157	青森	4%
	5カ年平均	1,753	137	122	143	151	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2023年見通し	1,750	150	140	150	160		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に、徳島、長崎などから入荷する。各産地平年並の出荷見通し。徳島産が上旬で終了し、岐阜中心の入荷となる見込み。 梅雨時期のため天候に左右される可能性あり。 入荷量は前年並で、価格は前年よりやや上回る見込み。</p>						

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	129,986	235	228	232	243	千葉 17%
	2019年	125,077	238	228	245	242	茨城 15%
	2020年	125,334	265	262	256	278	長野 10%
	2021年	116,676	261	281	264	238	群馬 9%
	2022年	115,348	267	272	277	251	青森 5%
	5カ年平均	122,484	253	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	123,000	245	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
関東産地や東北産地などからの入荷となる。多くの品目は生育に問題なく出回りに不足感はないと見込まれるが、梅雨の影響で入荷が不安定となる品目あるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	2018年	7,110	101	100	108	95	青森 54%
	2019年	7,266	82	69	101	79	千葉 22%
	2020年	7,172	103	103	102	104	北海道 14%
	2021年	6,002	108	117	112	96	茨城 2%
	2022年	6,802	105	113	105	96	群馬 2%
	5カ年平均	6,870	99	100	105	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,800	100	105	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森、北海道などからの入荷となる。温暖な気候で生育が順調なため、出荷は前進傾向である。肥大も良好。中旬から出荷量が増え、相場は軟調になると見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格はやや下回る見込み。							
にんじん	2018年	6,867	102	103	98	105	千葉 68%
	2019年	6,473	123	127	125	117	茨城 9%
	2020年	5,923	174	148	157	227	埼玉 9%
	2021年	6,370	124	130	124	116	北海道 3%
	2022年	5,547	154	148	164	151	長崎 2%
	5カ年平均	6,236	134	130	132	141	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,200	140	140	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉からの入荷が中心となるが、下旬には北海道や青森からの入荷が始まる。相場は大きな変動はないと見込まれるが、梅雨の天候不順による入荷減での上昇はあるか。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2018年	1,714	83	81	83	85	長野 92%
	2019年	2,112	70	67	74	69	茨城 7%
	2020年	2,288	82	111	73	70	山梨 1%
	2021年	2,317	79	119	75	59	
	2022年	2,137	80	82	79	77	
	5ヵ年平均 2023年見通し	2,113 2,100	79 80	93 80	76 80	71 80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に茨城からも入荷する。漬物、加工、業務は順調な動き。長野産は作付順調で1週間ほど前倒しの入荷見込み。茨城は切り上がり早い見込みで、下旬より長野産が増加する予想。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>					
キヤベツ	2018年	3,704	90	75	100	97	茨城 40%
	2019年	3,555	86	100	82	80	愛知 36%
	2020年	3,805	104	104	109	100	長野 11%
	2021年	4,416	94	104	90	90	群馬 6%
	2022年	3,961	91	101	91	83	静岡 2%
	5ヵ年平均 2023年見通し	3,888 4,000	93 90	97 90	94 90	90 90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、愛知を中心に長野、群馬などからも入荷する。愛知産の終了近く、茨城は前年より作柄良好で、出荷多い見込み。 6月上旬までは入荷多く、中旬以降減少予想。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>					
ほうろ	2018年	274	575	543	561	629	岐阜 64%
	2019年	270	560	518	547	641	茨城 19%
	2020年	264	611	557	602	715	静岡 8%
	2021年	320	559	625	530	538	長野 6%
	2022年	328	543	572	545	532	愛知 3%
	5ヵ年平均 2023年見通し	291 320	568 550	565 550	555 550	605 550	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜の飛騨地域を中心に茨城などから入荷する。岐阜産は上旬にピーク見込みだったが、低温のため遅れが発生している。梅雨入りの時期や天候不順により出荷状況や出荷量に影響が出る予想。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほういさ	2018年	6,856	73	58	76	82	長野 55%
	2019年	6,334	57	46	64	62	茨城 25%
	2020年	7,542	69	78	62	67	群馬 19%
	2021年	6,188	72	90	69	57	山梨 2%
	2022年	6,087	70	68	76	68	
	5ヵ年平均	6,601	68	68	69	67	
	2023年見通し	6,100	70	65	70	75	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、茨城、群馬などからの入荷となる。生育は順調で、一部の産地で出荷は前進傾向。潤沢な入荷となり、荷動きは鈍いと見込まれる。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
キャベツ	2018年	15,878	80	61	85	92	千葉 45%
	2019年	16,644	76	82	71	73	茨城 23%
	2020年	16,917	90	90	88	92	群馬 13%
	2021年	15,497	86	87	83	89	愛知 8%
	2022年	16,718	84	93	88	70	神奈川 3%
	5ヵ年平均	16,331	83	83	83	83	
	2023年見通し	16,500	80	75	80	85	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城、群馬などからの入荷となる。気温が高めに推移したため生育は順調で、関東産地の出荷は前進傾向。潤沢な入荷が見込まれ、不足感はない。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	2018年	1,325	467	427	450	525	群馬 32%
	2019年	1,227	450	385	466	512	茨城 31%
	2020年	1,283	503	475	477	579	栃木 21%
	2021年	1,406	428	464	400	413	岩手 5%
	2022年	1,314	469	491	476	440	岐阜 4%
	5ヵ年平均	1,311	463	449	453	492	
	2023年見通し	1,300	450	450	440	460	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城などからの入荷となる。生育順調で潤沢な出回りが予想されるが、梅雨入り後は落ち着くと見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	575	444	480	456	408	大分 30%
	2019年	591	429	445	433	413	愛知 16%
	2020年	572	501	488	491	523	茨城 14%
	2021年	585	458	485	463	420	静岡 14%
	2022年	610	479	509	494	441	中国 6%
	5カ年平均	587	462	482	467	441	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	580	450	470	460	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、愛知、茨城などから入荷する。大分は新ねぎに切り替わる。愛知は新ねぎ、静岡は夏ねぎが出揃い、順調な入荷見込み。愛知産は天候の影響がなければ順調な出荷予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
しそ	2018年	2,150	143	157	134	142	長野 99%
	2019年	2,231	124	122	125	124	山梨 1%
	2020年	2,705	116	145	99	110	
	2021年	2,474	142	215	145	102	
	2022年	2,328	164	180	173	145	
	5カ年平均	2,378	137	164	134	124	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,400	145	150	150	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。生育は順調で、前進出荷となる見込み。梅雨時期の降雨次第で増減するが、数量多く、大玉傾向。6月下旬から7月上旬にかけて単価低迷予想。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,609	270	248	263	300	愛知 37%
	2019年	1,671	259	229	274	279	長野 23%
	2020年	1,881	280	269	244	346	群馬 17%
	2021年	1,762	273	299	275	236	宮崎 9%
	2022年	1,610	225	226	234	214	高知 5%
	5カ年平均	1,707	262	255	258	277	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,650	250	260	250	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、長野、群馬などから入荷する。春作の群馬、長野、夏秋作の長野は順調な出荷見込み。冬春産地は概ね終盤で、中旬から下旬に北海道産がスタートする見通し。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4, 433	395	388	401	397	茨城 58%
	2019年	4, 223	421	427	439	395	千葉 22%
	2020年	4, 278	464	444	444	509	福岡 4%
	2021年	4, 031	417	433	426	391	栃木 3%
	2022年	3, 922	478	472	508	455	
	5ヵ年平均	4, 177	434	432	442	429	
	2023年見通し	4, 200	400	390	410	400	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、千葉などからの入荷となる。茨城の夏ねぎが中心になると見込まれる。各産地とも生育は順調。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。						
レタ	2018年	8, 527	135	143	123	137	長野 75%
	2019年	7, 891	115	114	117	115	群馬 20%
	2020年	8, 596	114	144	98	106	岩手 3%
	2021年	8, 022	148	220	139	99	茨城 1%
	2022年	7, 505	153	167	165	132	千葉 1%
	5ヵ年平均	8, 108	133	157	127	118	
	2023年見通し	8, 100	135	140	135	130	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野からの入荷が中心となる。各産地とも生育は順調。下旬には潤沢な入荷となり相場は軟調になると見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						
きゅうり	2018年	7, 120	274	230	267	324	埼玉 25%
	2019年	6, 911	269	230	306	281	群馬 23%
	2020年	7, 715	282	272	244	344	福島 12%
	2021年	7, 534	266	314	268	212	千葉 8%
	2022年	6, 907	220	231	234	196	茨城 8%
	5ヵ年平均	7, 237	263	257	263	272	
	2023年見通し	7, 300	260	250	260	270	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	前半は埼玉、群馬などの関東産地が入荷の中心となるが次第に収束していき、後半は福島など東北産地が中心となる。相場は、前半は潤沢な出回りで軟調、後半は入荷量が落ち着いて持ち直す見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。						

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	1,021	347	343	355	349	熊本 34%
	2019年	1,076	327	318	342	325	愛知 34%
	2020年	1,110	330	306	325	367	宮崎 25%
	2021年	880	376	384	394	352	高知 4%
	2022年	1,012	332	350	330	318	山梨 1%
	5カ年平均	1,020	341	338	347	342	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,000	350	325	350	375	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知、宮崎を中心に入荷する。愛知産美なすについては終盤で、6月中旬から愛知産長ナスがスタートする見通し。気温高で推移しており、冬春作は切り上がりが早まる見込み。 入荷量は前年並で、価格はやや上回る見込み。							
ト マ ト	2018年	1,723	226	203	209	265	熊本 54%
	2019年	1,737	213	200	215	229	愛知 19%
	2020年	1,724	224	203	208	275	三重 9%
	2021年	1,468	265	239	274	300	岐阜 9%
	2022年	2,207	190	280	317	273	大分 5%
	5カ年平均	1,772	221	228	248	268	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,500	270	270	280	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に三重、岐阜などから入荷する。冬春作は終盤に入り、減少傾向。下旬頃より夏秋作がスタートし、平年並の出荷予想。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年より大幅に上回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	2018年	650	494	474	477	534	熊本 51%
	2019年	717	441	413	425	506	愛知 30%
	2020年	693	455	409	462	516	北海道 10%
	2021年	664	543	490	559	613	茨城 4%
	2022年	609	590	528	606	658	和歌山 3%
	5カ年平均	667	502	460	503	563	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	600	600	540	600	660	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に北海道、茨城などから入荷する。冬春作は終盤で、6月下旬より夏秋作がスタートする見通し。1月からの寒さの影響から6月は冬春作と夏秋作ともに前年より少ない見込み。 入荷量は前年並で、価格は高値だった前年並の見込み。							

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	4,610	389	368	409	391	高知 33%
	2019年	4,516	378	374	410	353	群馬 19%
	2020年	4,669	385	352	371	445	福岡 15%
	2021年	4,417	386	421	395	344	熊本 8%
	2022年	4,676	342	354	354	319	茨城 7%
	5ヵ年平均	4,578	376	373	387	371	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,600	390	380	390	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知などの西南暖地と、群馬などの関東産地からの入荷となる。入荷の中心は西南暖地から関東産地へ移行する。梅雨の天候次第では不安定な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2018年	8,385	268	238	249	320	栃木 23%
	2019年	8,511	253	220	272	277	熊本 18%
	2020年	8,345	272	251	248	342	愛知 11%
	2021年	7,249	300	272	315	324	千葉 11%
	2022年	7,249	334	328	374	308	茨城 9%
	5ヵ年平均	7,948	284	259	289	314	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,550	310	310	310	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>栃木、熊本、愛知からの入荷ピークが過ぎ、北海道などの北日本産地からの入荷が始まる。生育は順調である。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ニ ン ト	2018年	2,187	469	434	444	533	熊本 33%
	2019年	2,323	424	382	431	476	愛知 19%
	2020年	2,333	420	374	413	490	千葉 11%
	2021年	2,119	508	470	528	539	茨城 11%
	2022年	1,995	600	542	639	626	静岡 8%
	5ヵ年平均	2,191	480	437	486	530	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	510	490	510	530	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。入荷は、上中旬は越冬作が中心となるが、下旬には春作・夏秋作の入荷開始が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	580	317	283	300	416	茨城 43%
	2019年	548	344	316	341	403	宮崎 22%
	2020年	615	459	419	457	466	高知 20%
	2021年	621	488	472	550	437	鹿児島 12%
	2022年	612	384	396	382	394	
	5カ年平均 2023年見通し	595 620	401 400	380 370	409 400	424 420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、宮崎、高知を中心に入荷する。春作の茨城は6月に入り入荷量が増え、安定した出荷見通し。鹿児島産は終盤で、宮崎の夏秋作の入荷が始まる。北海道産は6月末頃から入荷が始まる見込み。 入荷量は前年並で、価格はやや上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2018年	2,663	72	97	72	55	長崎 70%
	2019年	2,143	137	120	142	157	静岡 18%
	2020年	2,096	287	271	278	324	北海道 5%
	2021年	2,257	176	220	153	137	熊本 4%
	2022年	2,451	122	135	116	110	鹿児島 2%
	5カ年平均 2023年見通し	2,322 2,300	154 130	165 125	147 130	150 135	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎を中心に静岡、北海道などから入荷する。長崎産、静岡産は平年作で、鹿児島産は5月末までに終了。静岡は男爵中心の出荷で、L中心の見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
たまねぎ	2018年	4,815	75	84	73	79	兵庫 48%
	2019年	4,720	76	81	79	71	愛知 37%
	2020年	4,342	87	85	89	89	北海道 11%
	2021年	5,207	91	96	89	90	ニュージーランド 3%
	2022年	4,320	189	191	199	180	中国 1%
	5カ年平均 2023年見通し	4,681 4,500	102 100	106 100	104 100	100 100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫と愛知を中心に北海道などから入荷する。愛知は中晩生種でL中心の出荷となり、6月下旬に向けて出荷減少見込み。競合産地である佐賀と愛知の切り上がりが例年より早い見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	2, 3 4 2	3 6 8	323	350	431	茨城 79%
	2019年	2, 4 4 1	3 7 2	337	377	410	高知 8%
	2020年	2, 4 8 2	4 9 2	473	505	497	宮崎 5%
	2021年	2, 3 0 9	5 0 5	508	603	412	岩手 5%
	2022年	2, 3 4 4	4 2 6	445	453	380	大分 1%
	5カ年平均	2, 3 8 4	4 3 3	417	457	427	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 4 0 0	4 0 0	400	390	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城からの入荷が中心となる。中旬までピークが続き、潤沢な入荷で荷動きは鈍くなると見込まれる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ばれいしょ	2018年	9, 4 9 7	6 9	77	68	62	長崎 55%
	2019年	7, 6 2 1	1 3 8	123	140	157	静岡 17%
	2020年	6, 7 2 0	2 8 2	283	273	293	鹿児島 9%
	2021年	7, 7 9 6	1 7 8	223	164	140	熊本 6%
	2022年	7, 4 2 5	1 2 1	128	117	118	千葉 6%
	5カ年平均	7, 8 1 2	1 5 1	160	146	146	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7, 8 0 0	1 6 0	170	150	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長崎、静岡などからの入荷となる。生育順調で各産地とも大玉傾向であり、Lサイズ中心が見込まれる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
たまねぎ	2018年	1 2, 0 9 2	7 5	80	71	75	佐賀 35%
	2019年	1 1, 2 1 4	7 4	73	71	78	兵庫 25%
	2020年	1 0, 0 4 8	9 5	98	89	99	香川 10%
	2021年	9, 1 7 9	1 0 6	108	103	107	栃木 6%
	2022年	8, 4 7 8	2 1 0	215	208	206	愛知 5%
	5カ年平均	1 0, 2 0 2	1 0 7	109	103	108	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1 0, 0 0 0	1 2 0	140	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>佐賀、兵庫などからの入荷となる。生育順調で各産地とも大玉傾向であり、Lサイズ中心が見込まれる。一部で黒腐菌核病等の病害は散見されるが、出荷量への影響はない見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

5月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果実	2018年	7,209	429	399	434	473	フィリピン 25%
	2019年	6,506	447	438	479	479	愛知 20%
	2020年	6,466	475	476	485	514	熊本 9%
	2021年	6,667	455	466	451	491	ニュージーランド 7%
	2022年	7,468	457	468	465	476	青森 6%
	5カ年平均	6,863	452	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	7,100	450	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロンを中心に、いちじくなどが増量していく。みかん、アールスメロンについては、重油高の影響から全体数量が減少傾向となっている。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みの見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	2018年	732	299	322	281	312	愛知 41%
	2019年	750	349	371	349	336	熊本 27%
	2020年	627	387	383	398	389	茨城 20%
	2021年	589	391	398	400	393	長崎 5%
	2022年	695	431	441	429	422	山形 2%
	5カ年平均	678	369	382	369	368	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	620	400	400	400	400		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本、茨城などから入荷する。昨年よりも前進傾向のため、6月の入荷量はやや少ない見通し。熊本産は終盤を迎え、山形産が下旬より入荷見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						
すいか	2018年	2,208	190	190	188	193	愛知 46%
	2019年	1,952	228	237	235	214	熊本 19%
	2020年	2,107	252	267	256	235	鳥取 17%
	2021年	1,803	232	237	229	232	和歌山 9%
	2022年	2,000	252	284	246	235	石川 6%
	5カ年平均	2,014	230	242	230	221	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	1,900	230	240	230	225		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に鳥取などからも入荷する。全地域ともに生育は前進傾向で、下旬頃、一部で着果不良が見られる予想。熊本産は中旬頃終了し、石川産は6月中旬から始まる見通し。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	28,251	472	418	485	506	茨城 17%
	2019年	25,493	483	440	495	511	千葉 15%
	2020年	24,892	526	421	519	574	熊本 11%
	2021年	24,907	501	452	487	561	青森 9%
	2022年	24,311	545	513	567	552	フィリピン 7%
	5ヵ年平均	25,571	504	—	—	—	
2023年見通し	25,000	540	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロンを中心におうとう、ももなどが入荷する。 おうとうは主力の山形が凍霜害の影響で入荷量減となるか。ももは主力の山梨は生育順調でまとまった入荷量となる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。						
その他メロン	2018年	4,382	371	376	372	366	茨城 71%
	2019年	4,038	404	418	415	378	千葉 14%
	2020年	3,767	433	430	435	435	熊本 6%
	2021年	3,876	435	427	432	448	山形 4%
	2022年	3,504	488	510	498	456	北海道 2%
	5ヵ年平均	3,913	423	432	430	417	
2023年見通し	3,900	460	425	435	430	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
アールスメロン以外	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	クインシー、アンデスは茨城、タカミは千葉、茨城を中心に入荷する。 天候に恵まれ生育は順調で前進傾向。総じて大玉傾向で、平年並の出荷を見込む。 入荷量は、前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
すいか	2018年	9,055	214	212	211	217	千葉 34%
	2019年	8,719	246	258	247	233	熊本 20%
	2020年	9,161	274	275	285	253	茨城 19%
	2021年	8,559	252	248	247	260	鳥取 16%
	2022年	9,145	264	289	256	250	新潟 4%
	5ヵ年平均	8,928	250	256	249	243	
2023年見通し	8,900	252	255	250	250	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	大玉は千葉、熊本を中心に入荷する。生育の前進により入荷量は前年より少なくなる見込み。小玉は茨城、群馬を中心に入荷する。主力の茨城は大玉と同様に前進傾向で入荷量は前年より少なくなる見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	1, 5 9 9	4 2	
		2019年	1, 4 7 1	3 8	
		2020年	1, 1 3 9	4 3	
		2021年	1, 3 3 4	3 9	
		2022年	1, 3 6 0	3 8	
	5ヶ年平均	1, 3 8 1	4 0		
2023年見通し		1, 3 0 0	3 5		
概要	愛知中心に入荷する。秋系の出荷も終了し、夏系がメインとなって、出回りの数量も安定してくる見込みなので、中旬ごろからは相場も安定してくるだろう。				
小 ぎ	実績	2018年	1, 2 6 0	2 9	
		2019年	1, 1 3 0	1 9	
		2020年	1, 0 9 9	3 3	
		2021年	9 0 2	4 2	
		2022年	1, 0 7 8	2 4	
	5ヶ年平均	1, 0 9 4	2 9		
2023年見通し		1, 0 0 0	2 5		
概要	愛知、埼玉、沖縄などから入荷。春先の気温が高かったこともあり、出荷は前進傾向。品質的には生育環境も良かったので、病害虫の発生もほぼなく良好。梅雨入りしたこともあり、今後の天候で入荷、相場の動きも出てくるだろう。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2018年	1, 1 2 3	4 0	
		2019年	9 1 3	4 1	
		2020年	9 1 8	4 0	
		2021年	7 7 6	5 3	
		2022年	8 3 6	4 9	
	5ヶ年平均	9 1 3	4 4		
2023年見通し		8 0 0	4 5		
概要	愛知、長野の入れ替わり、初旬より長野中心となる。長野の出荷は順調で、輸入は大きな山なく、少な目が予想される。				
か す み	実績	2018年	1 2 6	8 9	
		2019年	1 0 4	8 2	
		2020年	1 1 1	7 6	
		2021年	1 0 1	1 1 0	
		2022年	1 0 8	1 0 7	
	5ヶ年平均	1 1 0	9 3		
2023年見通し		1 1 0	1 0 0		
概要	上旬は長野中心の入荷となり、中旬から福島の入荷が始まる見込み。気温高の影響もあり、西南暖地の切上が早く、上旬の入荷量は多くないと思われる。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2018年	325	133	
		2019年	290	124	
		2020年	305	104	
		2021年	249	146	
		2022年	251	155	
	5ヶ年平均		284	131	
	2023年見通し		250	150	
概要	<p>西南暖地については作付を減らしており、上中旬の入荷は多くない見込み。新潟は生育順調。需要の多くない月であるため、相場は軟調予想。</p>				
洋らん	実績	2018年	357	76	
		2019年	262	83	
		2020年	218	86	
		2021年	209	103	
		2022年	219	107	
	5ヶ年平均		253	89	
	2023年見通し		220	100	
概要	<p>鹿児島、愛知、静岡、輸入品が入荷する。オンシジウムは上位等級が増加し、下位等級が大幅に減る見込。デンファレはアンナが減少し、ソニア中心となって量的に減少。シンピジウムは国産は終了し、ニュージーランドがメインになる。カトレアは5月に比べ減少し入荷量は落ち着く見込み。コショウランは台湾中心に安定入荷。</p>				
ばら	実績	2018年	700	61	
		2019年	677	47	
		2020年	628	48	
		2021年	680	56	
		2022年	834	56	
	5ヶ年平均		704	54	
	2023年見通し		800	55	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形中心に入荷。ローズの日、父の日とイベントの動きに合わせて販売提案が続く。入荷は前年をやや下回る見込み。</p>				
枝も	実績	2018年	1,337	46	
		2019年	1,130	50	
		2020年	973	52	
		2021年	969	60	
		2022年	1,077	64	
	5ヶ年平均		1,097	54	
	2023年見通し		1,000	60	
概要	<p>長野、岐阜中心に入荷する。全般に前進傾向で上旬出荷の物が、5月下旬より始まって切り上がりも早そう。スモークツリー、スグリ、ブルーベリーなどは引き合いも強く、ドウダン、油ドウダンは気温の上昇で山に入れる時間が短くなるため、出荷量が減少する。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2018年	18,915	963	
		2019年	18,131	916	
		2020年	23,252	975	
		2021年	19,615	967	
		2022年	22,192	975	
	5か年平均		20,421	961	
	2023年見通し		22,000	977	
概要	<p>入荷量は前年並か。作柄に変更は無く、6号MIX主体の出荷構成になる。色目は赤・ピンク・白が主体になる。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（77.4%）、2位長崎（18.4%）、3位富山（1.8%）となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	2018年	24,258	2,710	
		2019年	23,864	3,077	
		2020年	21,287	3,388	
		2021年	19,575	3,715	
		2022年	23,756	3,200	
	5か年平均		22,548	3,193	
	2023年見通し		23,700	3,207	
概要	<p>入荷量は前年並か減少の見込み。ミディー胡蝶蘭の販売単価の伸び悩みと苗単価の高騰により海外から仕入れる苗の量が減っている。大輪の単価は数量、単価とも前年並みと予想される。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（56.8%）、2位宮崎（10.1%）、3位千葉（5.2%）となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2018年	20,283	129	
		2019年	17,970	120	
		2020年	30,115	130	
		2021年	23,245	158	
		2022年	21,779	166	
	5か年平均		22,678	141	
	2023年見通し		21,000	167	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。前半で中・大鉢仕立ては概ねなくなり、例年通り3～4号サイズが中心の入荷となる見込み。梅雨入りのタイミングにもよるが、需要期を過ぎ中値～安値安定になる見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（53.1%）、2位愛知（21.8%）、3位千葉（8.1%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ イ ド ラ ン ジ ニア	実績	2018年	53,206	524	
		2019年	72,955	522	
		2020年	62,966	552	
		2021年	51,782	611	
		2022年	71,765	547	
	5か年平均		62,535	549	
	2023年見通し		71,700	547	
概要	<p>入荷数量は前年並か。上旬までは潤沢に玉咲きあじさい中心に入荷が多いと思われる。</p> <p>近年は品種数も多くなり多品種での入荷が予想されるが、花持ちの良いマジカルシリーズの出荷は多いと思われる。今年は気温が高いため、季咲き商品が早まり後半は少ないと思われる。7号以上の大きいサイズの入荷も前年同様数量の見込みである。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(65.7%)、2位群馬(8.5%)、3位埼玉(7.4%)となっている。</p>				
ス パ テ ィ フ ィ ム	実績	2018年	8,058	340	
		2019年	10,713	278	
		2020年	11,712	306	
		2021年	14,644	268	
		2022年	8,967	359	
	5か年平均		10,819	304	
	2023年見通し		8,900	354	
概要	<p>入荷量は前年並か減少の見込み。前年同様に作付け量の減少が要因か。サイズは4号、6号が中心になる見込み。入荷量は減少するが、コロナの巣籠り需要も落ち着き、単価は昨年よりも厳しい予想。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(49.8%)、2位三重(40.1%)、3位岐阜(5.2%)となっている。</p>				
ド ラ セ ナ 類	実績	2018年	21,231	734	
		2019年	20,206	760	
		2020年	24,881	888	
		2021年	22,752	948	
		2022年	28,088	1,286	
	5か年平均		23,432	945	
	2023年見通し		27,500	1,309	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。特にコンシンネ、レモンライムなど原木原価が高騰している商品は大きく減る見込み。小鉢から大鉢まで品薄状況が続く。</p> <p>前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(67.5%)、2位沖縄(9.0%)、3位鹿児島(4.8%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.600
2023年6月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434